

私のウェルビーイングは…

教科指導と生徒指導の一体化



豊頃町立豊頃中学校 教諭 関谷昂二郎

《取組の紹介》

学びやすさ 「学び方を学ぶ」

子どもたちが学びを通して自分を表現し、やがて社会の一員として貢献するために、教室は「安心して挑戦できる場」であるべきだと思います。私の英語の授業では、タブレット使用や会話の制限をしません。必要なときに必要なツールを使い、自分に合う方法で学ぶことを大切にしています。単語調べや発音練習にICTを活用することで、学びのスタイルが個別最適化するように心掛けています。

また、授業では特に「どう学ぶか」に焦点を当て、学び方そのものを学ぶ授業を行っています。情報の探し方、友達との対話、振り返りの方法など、学習のプロセスに目を向けることで、自ら考え、他者と協働しながら学びを深めていく力や、挑戦する姿勢、コミュニケーション力といった「これからの社会を生きる力」を育むことを目指しています。



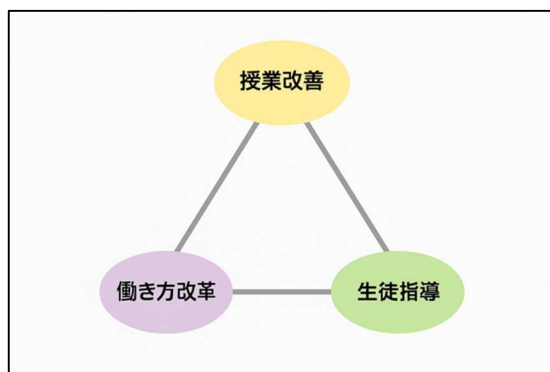
働きやすさ 「心理的安全性を職員室にも」

職員室の雰囲気づくりや働き方の見直しは、教職員のウェルビーイングに直結すると考えています。

私たちの職場では、授業や生徒指導について日常的に語り合える関係性を大切にしています。普段の何気ない子どもの様子から、今後の方針など、あらゆる情報が飛び交う職員室になってきています。

また、豊頃中学校ではチーム担任制を導入しており、業務の偏りをなくす工夫をしています。教員それぞれが得意な分野を担い合い、不要な業務は見直して削減。個性が尊重される職員室だからこそ、それが最大限に生きる業務分担を実践しています。

こうした取組は、単なる効率化ではなく、教職員が心身ともに健やかに働ける環境づくりを目指したものであり、安心して働ける職員室があるからこそ、子どもたちに安心して学べる授業を提供できると実感しています。



学びやすさ

働きやすさ

授業改善・生徒指導・働き方改革は、それぞれが独立したものではなく、相互に影響し合う関係にあると考えています。

業務が減ることで時間と心に余裕ができ、授業や子どものことを考えることができます。逆に、授業改善と生徒指導の視点から、働きやすさを考えることも大切だと感じています。

この3つが相乗的に作用することで、学びやすさ、働きやすさが向上し、子どもたちが将来社会の中で自分を実現できる力を身に付けることにつながると信じています。

《成果と課題・今後に向けて》

- ・【成果①】これらの取組を通して、子どもたちが自分の学びに責任をもち、主体的に取り組む姿が増えました。授業中の対話や振り返りが活発になり、学び合いの文化が少しずつ根付いてきています。
- ・【成果②】職員室では教職員同士の信頼関係が深まり、協働が自然に生まれるようになりました。業務の見直しによって時間と心の余裕が生まれ、授業や生徒対応により丁寧に向き合えるようになりました。
- ・【課題①】一方で、学びを生徒に委ねる場面が増える中で、自由度が高い分、学習の見通しをもたせる工夫や、適切な伴走の在り方については、まだ試行錯誤の段階です。
- ・【今後に向けて】授業改善と生徒指導に関しては、現在も職員間での共通理解を深めている段階にあります。今後は、共通の視点や価値観を育みながら、教職員が無理なく連携できる体制の構築を目指し、より一層の協働を進めていきたいと考えています。